

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス キッズワンハート		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 26日		2026年 2月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42名	(回答者数) 30名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 26日		2026年 2月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃から保護者様と密に連絡を取り合い、共通理解ができるよう努めています。 保護者様からの相談に対しては、いつでも対応できる体制を整えています。	ご利用中のお子さまの様子については、アプリの連絡ツールやSNSを活用し、その日のうちに保護者様へお伝えしています。 緊急性の高い内容については、電話で直接ご連絡した後、必要に応じて面談等を行っています。 また、定期的な面談を実施し、ご家庭・学校・事業所での状況を共有しています。 面談では、お子さまの「できていること」や「課題」を丁寧に話し合い、保護者様と共通認識を確認した上で、支援計画を作成し実施しています。	SNS等の連絡ツールを活用し、保護者様が気軽に相談できる環境づくりを進めています。 いつでも相談しやすい雰囲気づくりと信頼関係の構築を大切にし、個別の相談やお困りごとにも柔軟に対応しています。 一方で、保護者同士がつながる機会の創出については十分に対応できていない課題があります。 今後は、保護者交流の場や機会を設け、情報共有や支援ネットワークの充実を図っていきます。 また、職員が多方面の相談に応えられるよう、研修参加や学びを深め、得た知識を保護者様へ還元できる体制づくりにも努めてまいります。
2	個々の子どものニーズや生活状況を丁寧に把握し、それに基づいた支援計画の作成・実施を行うことで、子ども一人ひとりの育ちを支えています。また、子どもが安心・安定して過ごせるよう、環境設定にも配慮しています。清潔で安全な生活空間づくりを心掛け、活動がスムーズに進むよう空間レイアウトを工夫することで、子どもたちが落ち着いて日々を過ごせる環境を整えています。	個々の活動では、個別支援計画に基づき、その子のニーズや興味に合わせた活動を用意し、集中して取り組める環境を整えています。集団活動では、5領域ごとに目標を設定した小集団の支援計画を作成し、多彩なプログラムを実施しています。 生活空間については、くつろげる空間・学習や活動のスペース・気持ちを落ち着ける空間を分けて配置し、子どもが安心して過ごせる環境を整えています。	今後は、子どもたちが社会での経験をさらに積む機会を増やすことを重視します。 多様な体験活動を提供するとともに、地域の住民の方々と関わる機会を設け、地域との交流を深めていきます。 また、地域の方に放課後等デイサービスの活動を知っていただく機会を増やし、地域での居場所づくりやつながりの強化につなげていきます。
3	職員が虐待防止や意思決定支援などの研修に参加し、一人ひとりの人権を大切に、子どもが主体性を持った療育を実施している。	年に2回以上、人権に関する研修へ参加し、職員一人ひとりの人権意識の向上に努めています。また、職員のメンタルヘルスにも配慮し、安心して働ける環境づくりを行うことで、安定した支援の提供につなげています。 さらに、子どもと共に活動を企画したり、過ごし方のルールを一緒に考えたりすることで、子どもが主体的に意見を表明しや	職員のメンタルヘルス支援をより強化していきます。事業所内で安心して意見や悩みを共有できる体制を整え、一人の支援者に負担が偏らないよう会社全体でサポートしていきます。 職員の心身の安定が、ご利用者様への安定した質の高い支援につながるよう、継続的な体制づくりに努めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士が交流する機会がほとんどない	利用児童の学年層が幅広く、特性もさまざまであることから、保護者同士が共通のテーマで交流できる場を設定することが難しい状況があります。また、就労されている保護者様が多く、時間の確保が難しいとのご意見もあり、開催を見送ってきた経緯があります。さらに、SNS等で多くの情報が得られる環境にあるため、保護者会へのニーズ自体が高くない傾向もあり、交流機会の設定に踏み切れていませんでした。	保護者交流は、全体開催が難しいため、小規模やオンラインでの実施を検討します。事前に希望やニーズを把握し、参加しやすい形で情報提供や交流の機会を工夫していきます。
2	児童クラブや児童館との交流の機会が十分に確保できていない。	地域の他の施設との調整が難しく、子どもの特性や保護者の都合に合わせた交流の機会設定が難しい。 児童クラブと併行利用している児童もいる。 保護者様の意見としては、希望していないとの意見もあがっている。	お子さま一人ひとりの様子を見ながら、必要に応じて交流の機会を設けていきます。学童との併用や移行も考慮し、近所の公園などで自然に他のお子さまと関わる場を増やす工夫を行ってまいります。
3	事業所にバリアフリーではない場所がある。	教室内に段差がありますが、これはバリアフリーではないことによる不便さというよりも、意図的に設けたもので、身体の使い方やバランスを学ぶための環境設定です。安全に配慮しつつ、遊びや活動の中で自然に体を動かす経験ができるよう工夫しています。	段差による安全面への配慮をさらに強化し、必要に応じて手すりやマットなどを設置して、安全に身体の使い方を学べる環境を整えていきます。また、活動時には職員が適切にサポートし、安心して過ごせるよう努めます。